**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第７７回　（２０２１年７月２５日）**

**・勉強範囲：「第三章　ヴィディヤー・シャーゴル訪問」４１頁　上段　L９～**

**（前回のニシカーマ・カルマについて、続き）**

大事なポイントは、仕事に関するすべてのものは神のものである、私たちを生かしている水や太陽や土を含めてすべてのものは神が創造されたものである、と想像するだけでなく「本当に」理解することです。それが気づきです。

しかし私たちは実在のものを非実在と、非実在のものを実在と捉え、仕事は自分の仕事、仕事に使う能力も自分の能力などと間違って考えています。なぜでしょうか。それは生まれ変わりのたびに同じ間違い（＝実在を非実在と考え、非実在を実在と考える）をし続けているからです。何回も何回もそう考えているのでそれが深いサムスカーラとなっているのです。

ひどく汚れたコップは何度も洗わなければきれいにならないように、私たちの心の中には汚れの層（Layer）が厚く溜まっているので、それを簡単に取り除くことはできません。目に見える汚さは一目瞭然ですが、中の汚れ（心の中の汚れ）はわかりにくいものです。我慢のない私たちは「すぐにきれいにしたい、すぐにきれいになるだろう」と思いがちですが、そう言えるのは心の汚れがどれほど厚いかを理解していないからなのです。

私たちは生まれ変わるたびに「私、私」と考え続けており、今生で少しばかり「私ではない、私ではない」という実践や神のことを考える実践をしても、神を思い続けることは簡単ではありません。『ラーマクリシュナの福音』に「どんなに木を切ってもまた次の日には芽が出ている」という話がありますが、それが私たちのエゴです。今「ナーハム、ナーハム、トゥフー、トゥフー」（私ではない、私ではない、神様あなたです、あなたです）と考えても、次の瞬間には「私がやります」「私がします」「私がしないといけない」と考えてしまうのです。私意識（自我）中心となってしまうのです。

それに対する１つの策は、人格の各レベル（身体、感覚、生命エネルギー、心、潜在意識、知性、記憶、自我、各チャクラなど）にシュリー・ラーマクリシュナがおられる、と瞑想することです。［👉2020年12月福音勉強会の講義録データの、『実践１』に具体的なやりかたが掲載されています。また、日本ヴェーダーンタ協会HP→各種勉強会 講話のまとめ→各種講話→2020年1月に、「ラーマクリシュナ意識」についての講話の翻訳データがあります］

その種類の想像、イメージ、瞑想を毎日続ければ、自我は徐々に神聖化（スピリチュアライズ）されていきます。

ベンガル語［👉映像データの１６：２０頃］に、「名と形は別々だが、すべては神である」という金言があります。「池にハスの花が咲いています。その葉にカエルが座っています。突然池の中からヘビが飛び出してきました。するとカエルという姿の神は、ヘビという姿の神に驚いて、池という姿の神の中に飛び込んで隠れました」という内容です。

それが神聖化です。「私意識」を、神（シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザー、イエス、ブッダなど）中心にかえて、自我を神聖化（スピリチュアライズ）し瞑想するのです。すると瞑想中の考えが仕事のときにも他のときにも続くことができるようになっていきます。

私たちの問題は「瞑想のときの私」と「働くときの私」が異なることです。それが矛盾を生んでいます。ですがその瞑想をすると、仕事のときでも「神の仕事」「神の道具」etc.という意識を持つことができます。仕事のときにラーマクリシュナ意識を実践しようとしても、それだけでその意識を深めるのは無理です。また口だけで「私は神の道具」と言っても全然実践ができていません。そこで瞑想のときに「自我もシュリー・ラーマクリシュナです」という実践をするのです。毎日それをイメージすると、徐々に仕事の時にもそのイメージを持ち続けることができます。これは大事な実践です。

その瞑想が深まったら「私」はいなくなります──それが論理的な結果です。また、悟った人はその考えは自然に出ているのですが、私たちは悟っていないので実践をします。

　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～

**📖『ラーマクリシュナの福音』４１頁上段L９**

**少しの利己的動機も無しに、他者のために働く人は、じつは自分のためになることをしているのです。**

**（解説）**

ニシカーマ・カルマ（利己的動機のない働き）によって、チッタ（＝心　＊包括的な意味の心）がシュッディ（＝きよらか、純粋）になります。そこで初めて瞑想が可能になり、すると瞑想の次はサマーディ（悟り）です。求道者の求めるものはそれですから「ニシカーマ・カルマは自分のためになる」のです。

ヨーガ・スートラ（ラージャ・ヨーガ）のディヤーナの前段階は全てチッタ・シュッディのための実践で、それは私意識を清めてパラマートマンに至ろうとする実践です。バクティ・ヨーガではバクタの私意識を清めてバガヴァーン（神）意識に、ギヤーナ・ヨーガはジーヴァートマンの私意識を清めてブラフマンに至りますが、どの道でも結果は悟りです。求道者の中に神はいますが、それを見えなくさせている障害は私意識なので、それをきれいにして心の鏡の曇りを取り除き、神の反射があらわれるようにするのです。

他方、サカ―マ（＝欲望がある）・カルマは心の汚れの層を厚くします。シヴァーナンダジーは、気を付けなければ出家僧の行う霊的実践でさえもサカ―マ・カルマとなる、と警告しました。「僧がヒマラヤに行って霊的実践をしてアシュラムに戻ってくる。人々は偉大な僧だと言ってほめる。すると中からうぬぼれが表れる可能性がある。それはとても危険なことだ」とおっしゃいました。

ところでヴィディヤー・シャーゴルの慈善、たとえば子供たちのための学校設立や困った人々への援助は自分のためにではなく、名声欲のためにでもない、ニシカーマ・カルマでした。そしてヴィディヤー・シャーゴル自身、そこから喜びを得ていました。喜びを得られるということも「自分のためになること」の１つです。

**📖４１頁上段L１１**

**あなたのハートの中には黄金が埋められています。しかしあなたはまだそれに気づいていません。それは薄い土の層でおおわれています。**

**（解説）**

シュリー・ラーマクリシュナの話の内容と目的はつねに「神の悟り」で、いつも「神を悟ることが人生の目的です」とおっしゃいました。しかし普通の人の人生の目的は、喜び楽しみ幸せ平安知識を得るためにお金を稼ぎ、稼いだお金でそれらを得ることです。それが目的である人々に対して、なぜシュリー・ラーマクリシュナはつねに「神を悟りなさい」と言ったのでしょうか。

それは、神を悟れば、「永遠絶対無限の」喜び楽しみ幸せ平安知識を得ることができるからです。それに比べれば、普通の人の人生の目的である喜び楽しみ幸せ平安知識は小さいものですし、常にあるわけでもありません。お金があっても家族と合わないとかビジネスのストレスが多ければ、幸せは無理だからです。幸せになるには心の静けさが必要ですが、ストレスがあると心には心配や不安があり、始終心はそのことを考え動いているので静かになることはありません。幸せの一番の基準は静けさです。

シュリー・ラーマクリシュナがつねに「神を悟りなさい」と言ったのは、私たち皆に「一番の」喜び楽しみ幸せ平安知識を味わって欲しいからでした。それが会話では、「悟りは大事です。悟りは人生の目的です」という表現になったのです。

そのことをときどき誤解する人がいます。シュリー・ラーマクリシュナは出家僧や求道者のためだけにだけ助言したのだ、我々サラリーマンやビジネスマンや主婦etc.には神を悟る必要などないではないか、と言うのです。しかしそれは間違った解釈です。なぜならシュリー・ラーマクリシュナは万人のためにあらわれたとても慈悲深いお方だからです。

私たちは喜び楽しみ幸せ平安知識を欲しがっています。しかしそれを得るための方法が間違っています。ですからそれを得ることができません。幸せを、楽しみを、自由を探していたがそれが得られなかった、家族のために一生懸命働いたが家族は皆文句を言った、どんなに一生懸命やっても誰も喜ばせることができなかった、と最終的に失望します。そのことをシュリー・ラーマクリシュナはよく知っていたので、慈悲の心から皆を気づかせるために、「神を愛すれば、神の恩寵ですべての人を愛することができる」と教えたのです。それが会話となると「悟りは大事です。悟りは人生の目的です」という表現になったのです。

ヴィッディヤー・シャーゴルはすでにたくさんのサットワの質で満たされていました。真実（正直）の実践を厳しく行い、慈悲深く、非利己的で、学校を設立したり、貧しい人・困った人を助けたりもしました。非道徳的な行いを見ると自分に災難がふりかかってもそれをしりぞけ、また世俗的な楽しみも好きではありませんでした。短髪に質素な服、質素なサンダルという、見た目からは偉大な人物とは全くわからない質素な生活をしていました。大変に頭が良く、学友たちはふざけて彼に「」というあだ名をつけました（鯉は頭の部分が大きい魚ですが、それで、頭が良いということを友人たちはイメージしたのです）。

このようにヴィディヤー・シャーゴルはすでにサットワ的な人で、次に進む準備ができていました。ですからシュリー・ラーマクリシュナは、「あなたの土の層は薄い。（金の鉱山をイメージしてください。金を掘り当てるには土を掘る作業が必要です。金までの土の層が薄ければ作業はすぐ終わり、層が厚ければ作業は長くかかります）あなたは少し頑張れば、あなたの中に金を見つける」と言ったのです。金は神のシンボルで、サットワの次の段階は神の悟りです。そして「あなたの中の黄金（神）に気づいてください」と言いました。

**📖４１頁上段L１３**

**ひとたびあなたがそれに気づけば、これらすべてのあなたの仕事は少しずつ減っていくでしょう。子供が生まれたあとは、家の嫁はその子の世話にかかりきりです。彼女のすることは全部、子供のための仕事です。姑は彼女に、家の仕事はさせません。**

**（解説）**

神について何も考えなくても、瞑想しなくても、神の名をくり返し唱えなくても、神に祈らなくても、ニシカーマ・カルマで心が純粋になった例がヴィディヤー・シャーゴルです。シュリー・ラーマクリシュナは「悟ったら、あなたの仕事は減っていきます」と言って、赤ちゃんが生まれたときのお母さんの例を出しました。

悟りまでの方法は３つあり、それらは本当は矛盾するものではありません。１つはヴィッディヤー・シャーゴルのように、神のことは関係なくただ人を助けることで悟る。もう１つがまず神を悟り、そのあと人を助ける。３番目は両方同時に行うことです。

『福音』の中でシュリー・ラーマクリシュナは「まず悟ってください」と言い、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは「神の悟りの実践をしてください。同時に他人を助けて下さい」と言っています。このことを普通に考えたら、シュリー・ラーマクリシュナとスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの方法は異なるということになるでしょう。この混乱はラーマクリシュナ僧院が始まったとき、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの兄弟弟子の中にもありました。

しかしここで考えて欲しいのは、「それぞれが助言している相手が違うので、それぞれが『強調』する点も違った」ということです。シュリー・ラーマクリシュナは年取った人に助言することが多かったので、いつ亡くなるか分からなくて時間がないということで、悟りを強調しました。一方、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは若い人たちを含めたすべての人たちへの助言だったのです。そして、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダのほうがもっと実践的な助言ではありませんか？　「悟ったあと助ける」ではいつ助けることができるか分からないですから。今生に悟れるかどうかは分からないことですから。

ですからラーマクリシュナ僧院にはAtomana Moksartham（自分を悟る）とJagadhita ya ca（世界の皆さんをお世話する）という２つの目的があるのです。その２つがなければラーマクリシュナ僧院ではありません。且つ、Jagadhita ya ca、他人を一生懸命助ける態度はニシカーマが前提です。昔の僧院はヒマラヤに多かったけれどもラーマクリシュナ僧院が市中にあるのは、山や森にいては困った人を助けることはできないからです。加えて、そのお世話も赤十字社やヴィッディヤー・シャーゴルのような援助ではありません。外から見れば同じ「援助」でも、目的が異なります──私たちの目的は悟りです。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダには「自分」は全くありませんでした。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダのやり方は全てシュリー・ラーマクリシュナがコントロールしていました。シュリー・ラーマクリシュナが助言し、シュリー・ラーマクリシュナが導いていました。ですからシュリー・ラーマクリシュナの教えとスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの助言に矛盾はありません。

**📖『福音』４０頁上段L１７**

**前進なさい。あるとき一人の木こりが、木をとりに森に入りました。一人の僧侶が彼に、『前進せよ』と言いました。彼は教えにしたがって、の木を見つけました。数日後に彼は考えました。『僧侶は前進せよと言った。彼はここでとまれとは言わなかった』と。そこでさらに前に進み、銀鉱を発見しました。数日後にさらに進んで金鉱を、そしてつぎにはダイヤモンドやその他の宝石の鉱脈を発見しました。そのようにして彼は、巨万の富を得たということです。**

**（解説）**

「前進せよ」よりも、「進んでください」という、会話の時に使う言葉のほうがもっと心や頭の中にメッセージが入るのではないでしょうか？　ベンガル語版はシュリー・ラーマクリシュナが語った言葉がそのまま書いてあり素晴らしいですが、翻訳は、時にメッセージが伝わりにくいことがあるのが残念です。それでもこの部分の英語の翻訳は「Go forward.」というダイレクトな言い方になっていて、ベンガル語に近いと思います。Don’t stop, go forward.、「止まらないで進みなさい」というのがシュリー・ラーマクリシュナのメッセージです。これは以前にお話した「一日もやめない」、「やめないで立ち向かえ」と共に、とても重要なメッセージでありキャッチフレーズです。

Don’t stop, go forward.は霊的・世俗的に関係なく重要な態度です。ビジネスでも少しの利益で止まっていたら成長はありません。オリンピックの選手も、学校のチャンピオン、地域のチャンピオン、県のチャンピオンとなって国の代表となります。それらは皆同じ「止まらないで進みなさい」の結果ではありませんか？　途中でストップしていたら、オリンピックに出られることはありません。

霊的な道も同様です。止まらないで進めば、悟りまで行けます。悟れば絶対の至福、絶対の知識、絶対の幸せ、絶対の自由があらわれます。では、オリンピックの金メダルと悟りの結果ではどちらがよいですか？　オリンピックの金メダルをとると称賛されメディアにも取り上げられるでしょう。しかしその嬉しい状態はいつまで続きますか？　次のオリンピックまでかもしれません。またメダリストを嫉妬したり批判したりする人も出てくるでしょう。

ウパニシャドの句（サンスクリット語）に次のようなものがあります。

（板書）

Na alpe sukham aste

Yat bhūmāiva tat sukham

意味は、「世俗的なものは小さい。小さいものをもらう結果も小さい喜びである。しかしブラフマンを悟った結果、偉大な楽しみを得る」。

シュリー・ラーマクリシュナも木こりの例を使って同じことを言っています。霊的な実践の瞑想やジャパで少しの幸せがあらわれるかもしれません。ですがそれでもう十分、これ以上頑張らないとは思わないでください。止まらないで進んでください。では、どこまで進むのですか？　悟りまでです。またそうしなければいけません。

スワーミー・ブラフマーナンダも自分の直弟子に「あなたは今少し瞑想して神のことを思い、祈って、楽しみの状態になっているが、そこでストップしないでください。なぜならもっともっと楽しまなければいけないからです。一番の楽しみは悟りです」と同じことを言いました。ブラフマーナンダジーの言うことは、「ニルヴィカルパ・サマーディの後から本当の霊的人生が始まる」、アドブタ―ナンダジーの言うことは、「霊的な楽しみには限度がない」でした。「神も無限、神様の楽しみも無限、それが一番の楽しみ」というのが正しいことです。

シュリー・ラーマクリシュナはさまざまな悟りの道をみずから実践しました。最初はマザー・カーリーがあらわれた（シャクタ）、次にヒンドゥ教の他の実践（ヴァイシュナヴァ、タントラ、ヴェーダーンタ）、それからキリスト教、イスラーム教の実践……。

一般的には、シュリー・ラーマクリシュナは宗教の調和を体現するためにさまざまな霊的道の実践をしたとされていますが、ホーリー・マザーの考えはそうではなく、「神の悟りのいろいろな方法を使って、神の悟りのいろいろな味を味わいたかったから」というものでした。

分かるでしょうか？　いろいろな悟りの方法を実践すると、その悟りのいろいろな味を味わえます。シュリー・ラーマクリシュナはそれらを経験したかったので、いろいろな悟りの方法で実践したのです。それは宗教の調和のことを考えて実践したのではなかった──これがホーリー・マザーのとても大事な意見でした。

もちろん宗教の調和という側面もあります。なぜならシュリー・ラーマクリシュナのそのような実践によって、人々が宗教の調和を理解したからです。ですが一番の理由は「味わいたい」です。味わいたいからいろいろな方法で実践したのです。普通の悟った人とシュリー・ラーマクリシュナの方法は全く異なっています。

Go forward.のメッセージに戻ると、シュリー・ラーマクリシュナ自身もそのようにGo forwardの態度で実践し続けました。シャクタ、ヴァイシュナヴァ、ヴェーダーンタでストップしていない。さらにキリスト教、イスラーム教も実践しました。そして木こりの例を使って、「神を悟るまで実践してください、すると絶対の至福、絶対の幸せ、絶対の自由、絶対の知識があらわれます」と助言しました。

（参加者に向かって）今日の話の結論は何ですか？

（参加者）「止まらないで進みなさい」

**（Q＆A）**

**Q：**質問ではなく感想ですが、誠実で慈悲深くて道徳的で世俗的な楽しみを求めないようなヴィッディヤー・シャーゴルさんが薄い土の層であれば、私の土の層はどれぐらい厚いのか、とても心配になったのですが、そのあと「前進あるのみ」という答えもいただいて、これから前進し続けたらいいんだなとわかりました。

**Q：**感想なんですけれども、「してあげる方が、もらう人より恵まれている」という言葉が印象に残りました。

**A：**もちろんそうですよ。ですけれども皆に対するメッセージは、「止まらないで進みなさい」です。野心は世俗的なものについてだけ言うと考えている人が多いですが、「野心」は霊的な生活においても大事です。シュリー・ラーマクリシュナが言う「止まらないで進みなさい」は、霊的なものについて、野心が一番大事ですというメッセージでもあります。

（賛歌奉献：映像データの１：５１：３５頃）

「アジ　エ　シュボ　ディネ」

アジ　エ　シュボ　ディネ　ミリエ　バカタジャネ

Aji e shubho dine milie bhakatajane

ガホ　ガホ　ラーマクリシュナ　ナーン

Gaho gaho Ramakrishna nam

ガホ　レー　ジャヤ　ジャヤ　ラーマクリシュナ　ナーン

Gaho re jaya jaya Ramakrishana nam（×2）

ラーマクリシュナ　ナーメー　ラーマクリシュナ　プレーメー

Ramakrishna name Ramakrishna preme

マティヤー　ウツック　ダッラ　ダッーン

matiya uthuk dhara dham

ガホ　レー　ジャヤ　ジャヤ　ラーマクリシュナ　ナーン

Gaho re jaya jaya Ramakrishna nam（×2）

ハリテ　ブッバッアール　ナラ　アヴァターラ

Harite bhubhar nara avatar

プラブ　ラーマクリシュナ　グナ　ダッーン

Prabhu Ramakrishna guna dham

ガホ　レー　ジャヤ　ジャヤ　ラーマクリシュナ　ナーン

Gaho re jaya jaya Ramakrishna nam（×2）

ジェイ　ラーム　セイ　クリシュナ　ヴィシュワグル　ラーマクリシュナ

Jei Ram sei Krishna vishwaguru Ramakrishna

エカダッーレ　シャマ　シヴァ　シャーム

Ekadhara Shyama Shiva Shyam

ガホ　レー　ジャヤ　ジャヤ　ラーマクリシュナ　ナーン

Gaho re jaya jaya Ramakrishna nam （×2）

（訳）ラーマクリシュナの名に勝利あれと歌おう。

今日、このめでたき日に集まった信者達よ。

皆でラーマクリシュナの名に歌おうではないか。

ラーマクリシュナの名と、ラーマクリシュナの愛で

この世界を酔わせようではないか。

皆でラーマクリシュナの名に歌おうではないか。

ラーマクリシュナの名に勝利あれと歌おう。

この世の不幸を取り除くために、聖なる愛が

善の権化である主ラーマクリシュナとして化身されたのだ。

皆でラーマクリシュナの名に歌おうではないか。

ラーマクリシュナの名に勝利あれと歌おう。

あのラーマ神とあのクリシュナ神が、

世界の師ラーマクリシュナとなられたのだ。

シャーマー（カーリー）女神やシヴァ神やシャーム（クリシュナ）神が、

彼の中に生きておられるのだ。

皆で　ラーマクリシュナの名に歌おうではないか。

ラーマクリシュナの名に勝利あれと歌おう。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上